

忘年会・新年会（2020年12月～2021年1月）の動向を調査

**忘・新年会への参加見込み回数、49.1%の人は「減少しそう」
「会社・仕事関係」の忘・新年会へは前年度から半減以下に
想定予算も1回当たり平均4,234円で4年ぶりに減少**

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健）の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏の男女約9,000人を対象として、今年度（2020年12月～2021年1月）の忘年会・新年会（以下、忘・新年会）についての消費者アンケートを実施しました。結果から見てきたコロナ禍での忘・新年会の動向を発表します。

<要約>**POINT1 今年度の忘・新年会への参加回数は****昨年度より減少する見込みの人が49.1%**

・・・ P3-5

- 3圏域（首都圏・関西圏・東海圏）計では、忘・新年会の参加予定回数は「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」の“減少派”が計49.1%と大幅増加。「昨年と変わらない」との回答は48.9%。「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」の“増加派”は計2.0%。

【参考】

昨年度（2019年12月～2020年1月）の忘・新年会の平均参加回数は、忘年会1.04回、新年会0.50回。

**POINT2 1回当たりの予算は平均4,234円（前年比-215円）で
4年ぶりに減少の予測**

・・・ P6

- 今年度の忘・新年会1回当たりの予算は、「5,000円～6,000円未満」（28.7%）と「3,000円～4,000円未満」（26.9%）の二つの山。「4,000円～5,000円未満」（18.7%）は、2012年度の調査開始以来、最低数値。
- 平均想定予算は4,234円と4年ぶりに減少（前年比-215円）の予測。

**POINT3 「会社・仕事関係」の忘・新年会実施見込みは前年度から半減以下。
20代男女では、今年度、オンラインに切り替えて参加する見込みの
忘・新年会がある人が約1割**

・・・ P7-8

- 今年度参加する見込みの忘・新年会は、「会社・仕事関係」（20.9%、前年度比-24.2ポイント）に代わって「友人・知人関係」（23.9%、前年比-12.1ポイント）が最多に。「学校関係」「地域の集まりの関係」「趣味・サークル関係」も前年度比でそれぞれ半減以下。
- 今年度、昨年度までリアル開催だったがオンライン開催に切り替えて参加する見込みの忘・新年会がある人は6.1%。20代男女では各10%以上がオンラインに切り替えて参加する見込み（20代男性11.4%、20代女性12.0%）。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

調査概要と回答者プロフィール

◎調査名	外食市場調査(2020年10月度)
◎調査方法	インターネットによる調査 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、昨シーズンの忘年会・新年会についての実績や、今シーズンの意向などを聴取。
◎調査対象	首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

①調査目的	本調査の協力者を募集するために実施
②調査時期	2020年9月18日(金)～2020年9月30日(水)
③調査対象	首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
④調査内容	本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
⑤配信数	484,830 件
⑥回収数	32,518 件
⑦本調査対象者数	15,738 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)＝250セルについて、平成30年人口推計(総務省)に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

■本調査

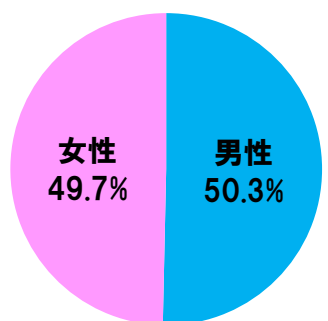
①調査方法	・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
②調査期間	2020年11月2日(月)～2020年11月10日(火)
③配信数	11,336 件
④回収数	9,093 件 (回収率 80.2 %)
⑤有効回答数	9,008 件 (首都圏 4,507 件、関西圏 2,424 件、東海圏 2,077 件)

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わない判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、平成30年人口推計(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分＝250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 9,008 件(首都圏: 5,172 件、関西圏: 2,462 件、東海圏: 1,373 件)

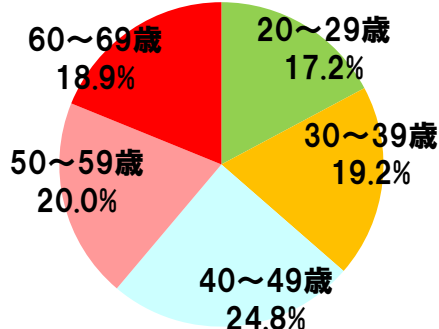
◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)

■性別



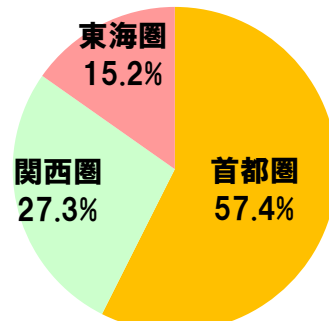
n=9,008

■年代



n=9,008

■居住地



n=9,008

1. 今年度の忘・新年会への参加回数は昨年度より減少見込みの人が49.1%

今年度（2020年12月～2021年1月）の忘・新年会の参加回数の見込みは「昨年と変わらない」との回答が首都圏・関西圏・東海圏の3圏域計で48.9%。2012年度の調査開始以来、最も少ない数値となっている。「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」の“増加派”は計2.0%（前年同調査では9.0%）、「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」の“減少派”は計49.1%（前年同調査では12.1%）で、減少派が増加派を大きく上回った。減少派は、特に30・40代男性で多くなっている。後述する（P5）昨年度の参加実績では、忘年会で平均参加回数1.04回、新年会で同平均0.50回（共に0回含む）となっており、今年度はこの回数を下回ると見込まれる。

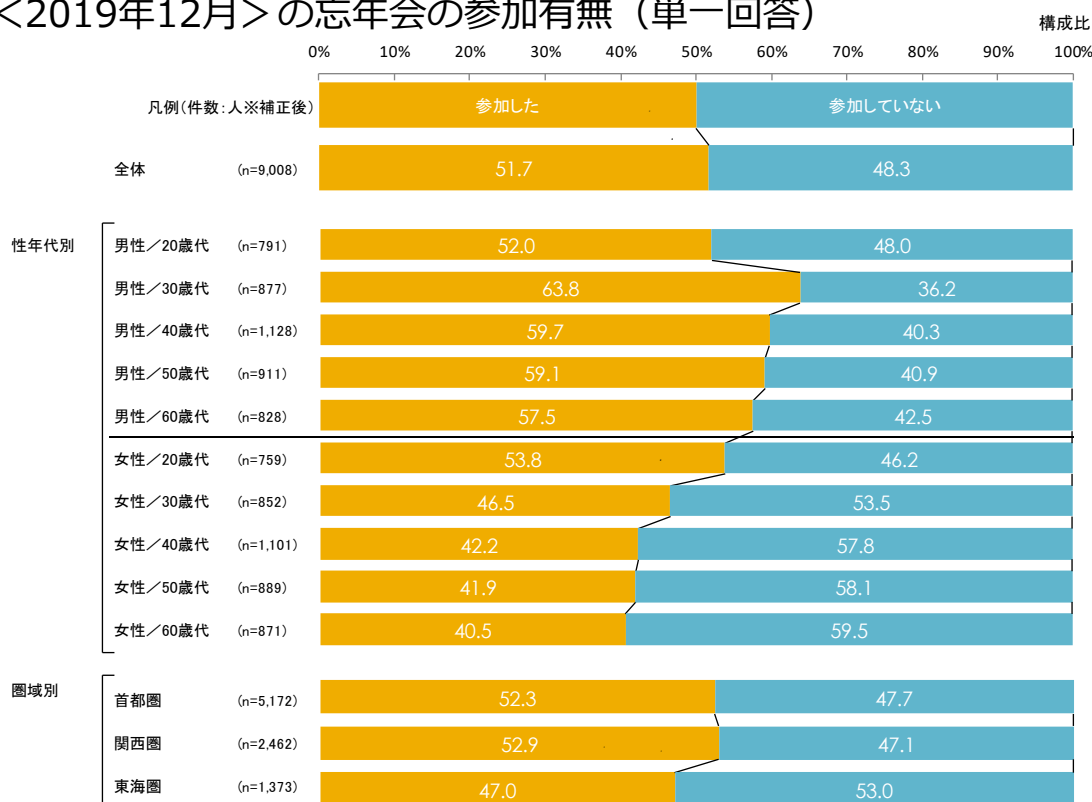
■今年度<2020年12月～2021年1月>の忘・新年会の参加回数の見込み（単一回答）



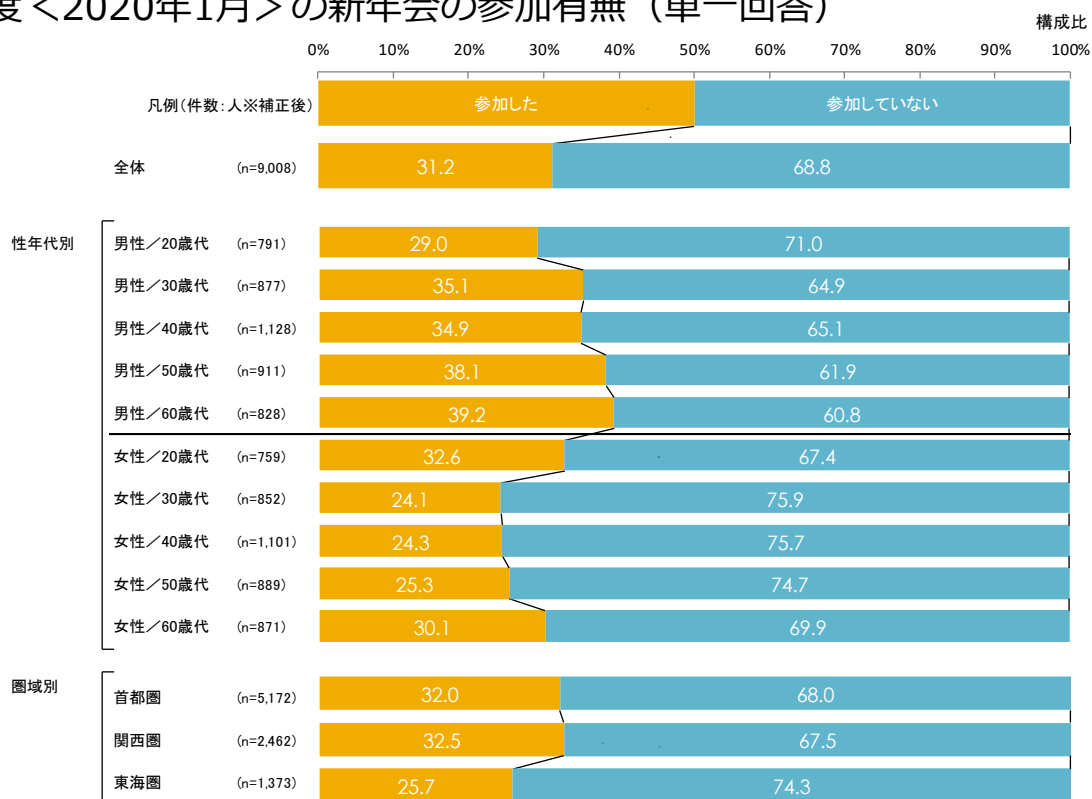
➢増加・計：「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」のいずれかを回答した人。
➢減少・計：「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」のいずれかを回答した人。

【参考】昨年度＜2019年12月～2020年1月＞の忘・新年会参加有無

■昨年度＜2019年12月＞の忘年会の参加有無（単一回答）



■昨年度＜2020年1月＞の新年会の参加有無（単一回答）

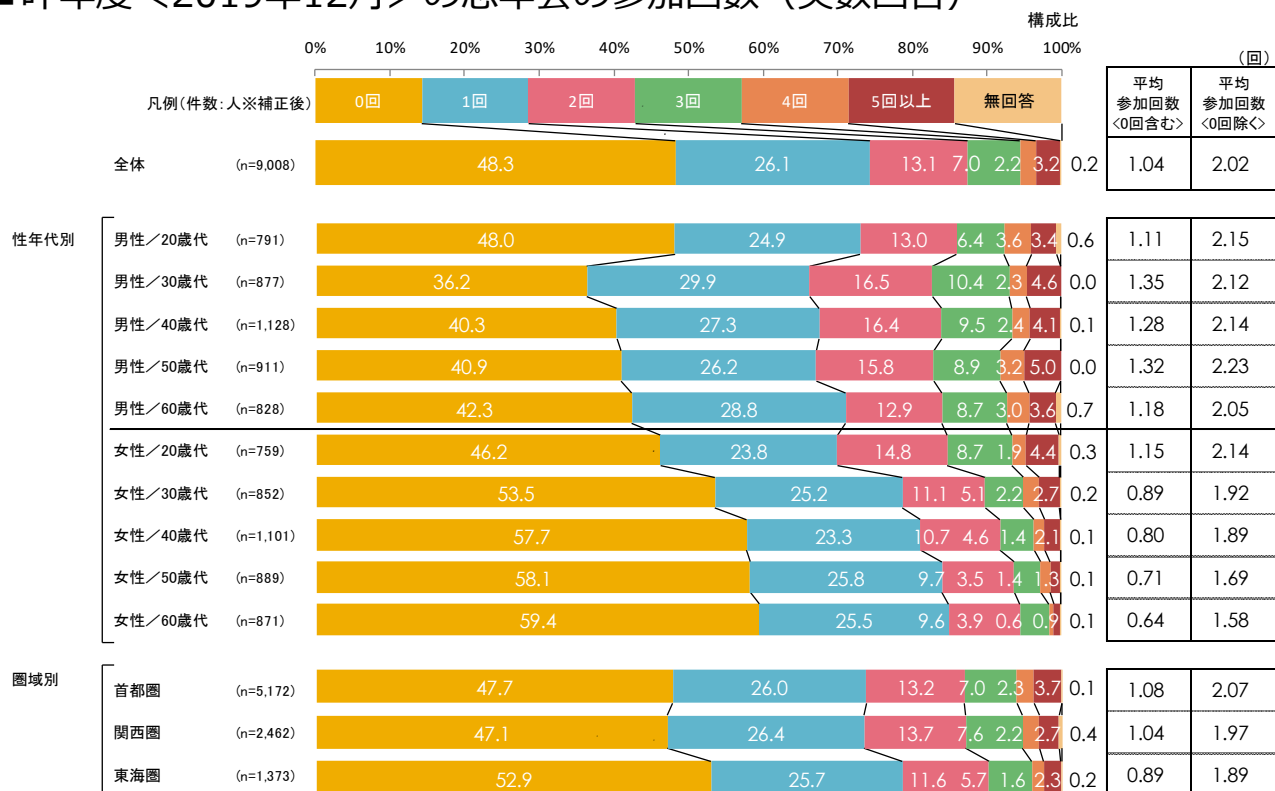


※今回(2020年度)調査で聴取。

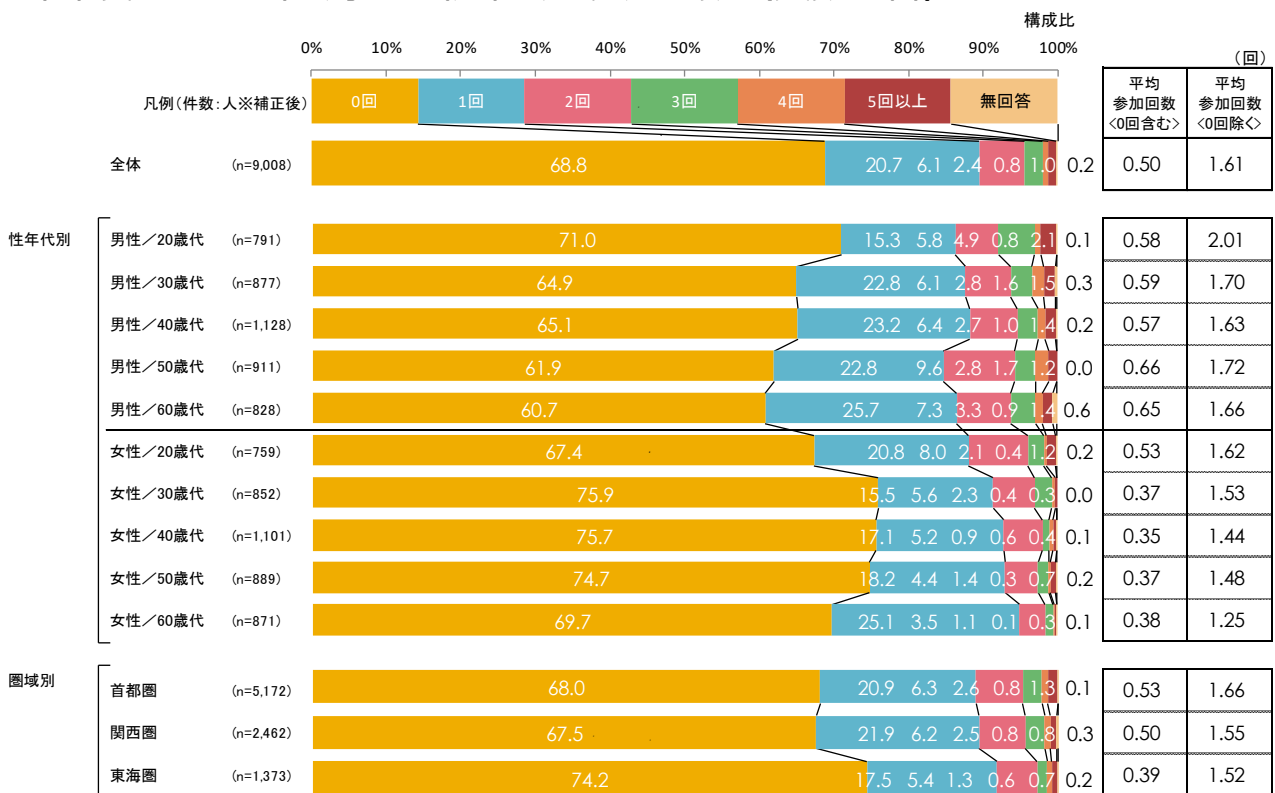
- ▶参加した：「2019年12月上旬」～「2020年1月下旬」までの各時期のいずれかで1回以上と回答した人。
- ▶参加していない：「2019年12月上旬」～「2020年1月下旬」までの全ての時期で0回と回答した人。

【参考】昨年度＜2019年12月～2020年1月＞の忘・新年会参加回数

■昨年度＜2019年12月＞の忘年会の参加回数（実数回答）



■昨年度＜2020年1月＞の新年会の参加回数（実数回答）



※今回(2020年度)調査で聴取。

※「平均参加回数」は、上下0.1%の範囲のデータを無効回答として集計している。

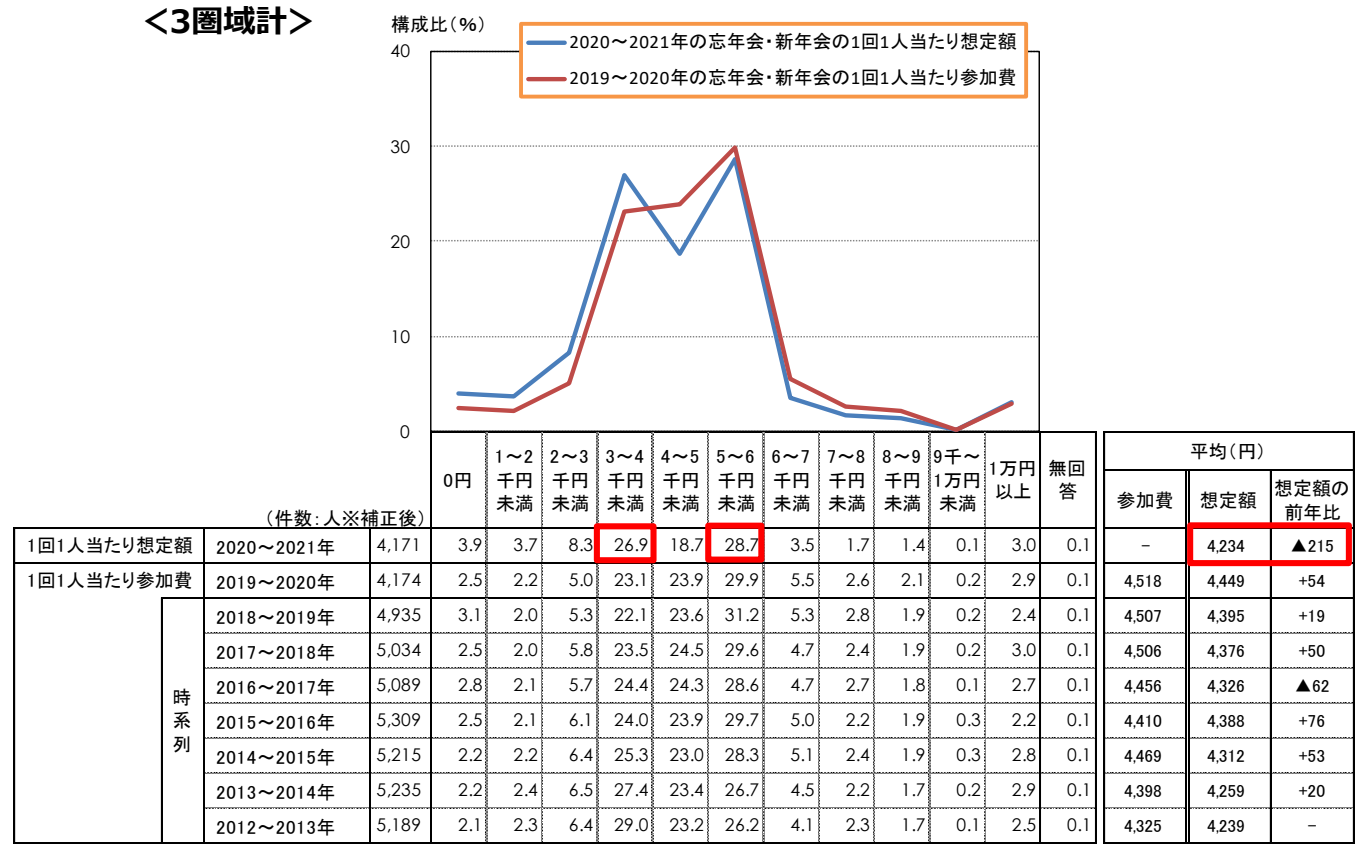
2. 忘・新年会予算（1回当たり）は4年ぶりに減少の予測（前年比-215円）

忘・新年会の予算について、昨年度実際に使った金額と今年度の想定予算を聞いた。想定予算では、1回当たり「5,000円～6,000円未満」（28.7%）が最も多く、「3,000円～4,000円未満」（26.9%）と併せて二つの山があるグラフの形となっている。1回当たり「4,000円～5,000円未満」（18.7%）は2012年度の調査開始以来、最も少ない比率を記録した。「0円」を除く今年度の平均想定額は4,234円（前年比-215円）と4年ぶりにマイナス予想となった。実際に使った金額を見ると、概ね経年で増加傾向にあったが、今年度の参加費は一転して減少の予想となっている。後述（P7）の通り、今年度の忘・新年会は「会社・仕事関係」での開催において特に実施機会が減少することが見込まれていると回答されている。会社・仕事関係の忘・新年会は費用の全額や一部を会社・団体が負担するケースもあることから予算が高いことが想定されるため、その実施機会が減少する見込みであることが、平均想定予算の減少につながっている可能性もありそうだ。

■忘・新年会の1回当たりの参加費（支出実績）と想定予算（想定額）
（2012年度忘・新年会～2020年度忘・新年会、実数回答）

※想定額は参加する機会がありそうな人の回答、参加費は参加者の回答

<3圏域計>

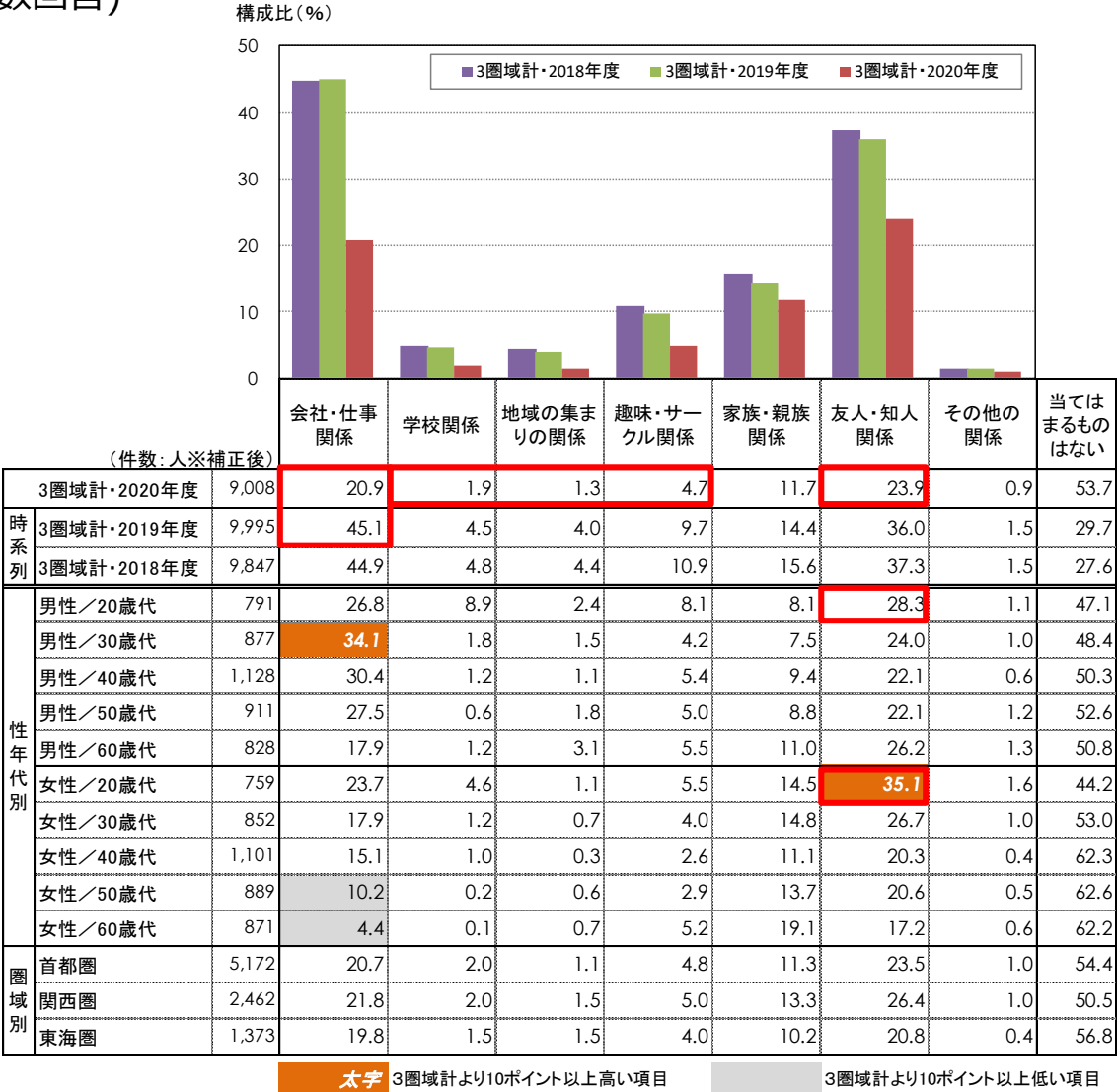


※「1回1人当たり想定額」及び「想定額」の平均は、該当年度の調査で聴取したもの。
※「1回1人当たり参加費」及び「参加費」の平均は、翌年度の調査で結果を聴取したもの。
※平均は「0円（自分では払わない）」を除いて集計。
※想定額は「自分で払ってもいい額」として聞いている。
※参加費は「自分で払ってなくても会にかかった1人当たりの金額」を聞いている。
※各費用の上下0.1%の範囲のデータを無効回答として集計している。

3.「会社・仕事関係」の忘・新年会の予定は20.9%で前年度から半減以下

今年度、参加する機会がありそうな忘・新年会の相手を聞いた。いずれの相手との忘・新年会においても、参加する機会がありそうとの回答は前年度から大きく減少した。最も多かった相手は、前年度までの「会社・仕事関係」に代わって「友人・知人関係」（23.9%）であった。前年度まで最も多かった「会社・仕事関係」については、今年度は20.9%（前年度45.1%）と半減以下の予想となっている。「会社・仕事関係」はもともと高い割合であっただけに、参加機会の減少が飲食店には大きな影響を与えそうだ。この他「学校関係」「地域の集まりの関係」「趣味・サークル関係」でも前年度比でそれぞれ半減以下となっており、参加機会の減少が見込まれる。「友人・知人関係」は、20代女性（35.1%）、20代男性（28.3%）において参加予定と回答した割合が高くなっている。飲食店にとっては若年層のプライベートな忘・新年会の取り込みが売り上げ確保のカギとなりそうだ。

■参加する機会がありそうな忘・新年会の相手（2018年度～2020年度）
（複数回答）



※「3圏域計・2019年度」は2019年調査、「3圏域計・2018年度」は2018年調査で聴取したもの。

4. オンラインに切り替えて参加する機会がありそうな忘・新年会は6.1%

昨年度までリアル開催だったが、今年度オンライン開催に切り替えて参加する機会のある忘・新年会を聞いた。「当てはまるものはない」 (= オンラインに切り替えて参加する機会がありそうな忘・新年会はない) が全体では93.9%で、裏を返せば、6.1%の人はオンラインに切り替えた忘・新年会に参加する機会がありそうということがわかった。相手別では「友人・知人関係」が最も多く3.3%で、オンラインに切り替えた忘・新年会に参加する機会がありそうと回答した6.1%のうち半分以上が回答している。性年代別では、オンラインに切り替えて参加する機会がありそうな割合が最も多かったのは、20代女性で12.0% (当てはまるものはない：88.0%)、次いで20代男性で11.4% (当てはまるものはない：88.6%) であり、若年層を中心に忘・新年会の一部がオンライン開催に切り替わることが想定される。

■昨年度までリアル開催だったが、今年度、オンラインに切り替えて参加する機会がありそうな忘・新年会の相手（複数回答）

